

# 魚梁船

やなぶね

明治時代に鉄道ができるまで、大和川は<sup>やまと</sup>大和（現在の奈良県）と<sup>かわち</sup>河内（現

在の大阪府）を結び重要な交通路でした。河合町市場にある<sup>みゆきばし</sup>御幸橋の東側

に、かつて「<sup>かわいはま</sup>川合浜」という船着場があり、たくさんの荷物が集まるところ

でした。魚梁船は川合浜などの船着場と<sup>かめのせ</sup>亀ノ瀬（王寺町・大阪府柏原市）

の間で荷物の運搬に使われました。川合浜から<sup>かしろらし</sup>亀ノ瀬までは米や綿などが

運ばれ、<sup>かしろらし</sup>亀ノ瀬から川合浜やさらに上流の船着場へは肥料などが運ばれま

した。

魚梁船の実物は残っていませんが、昭和十二年刊行の『大和王寺文化史

論』によると、長さ約十五・三メートル、幅約一・五メートルで、剣のよ

うな細長い形は<sup>かめのみせ</sup>亀ノ瀬より下流で使われた<sup>こさねのふね</sup>剣先船と似ており、剣先船（長

さ約十七・五メートル、幅約一・九メートル）よりやや小さいとされてい

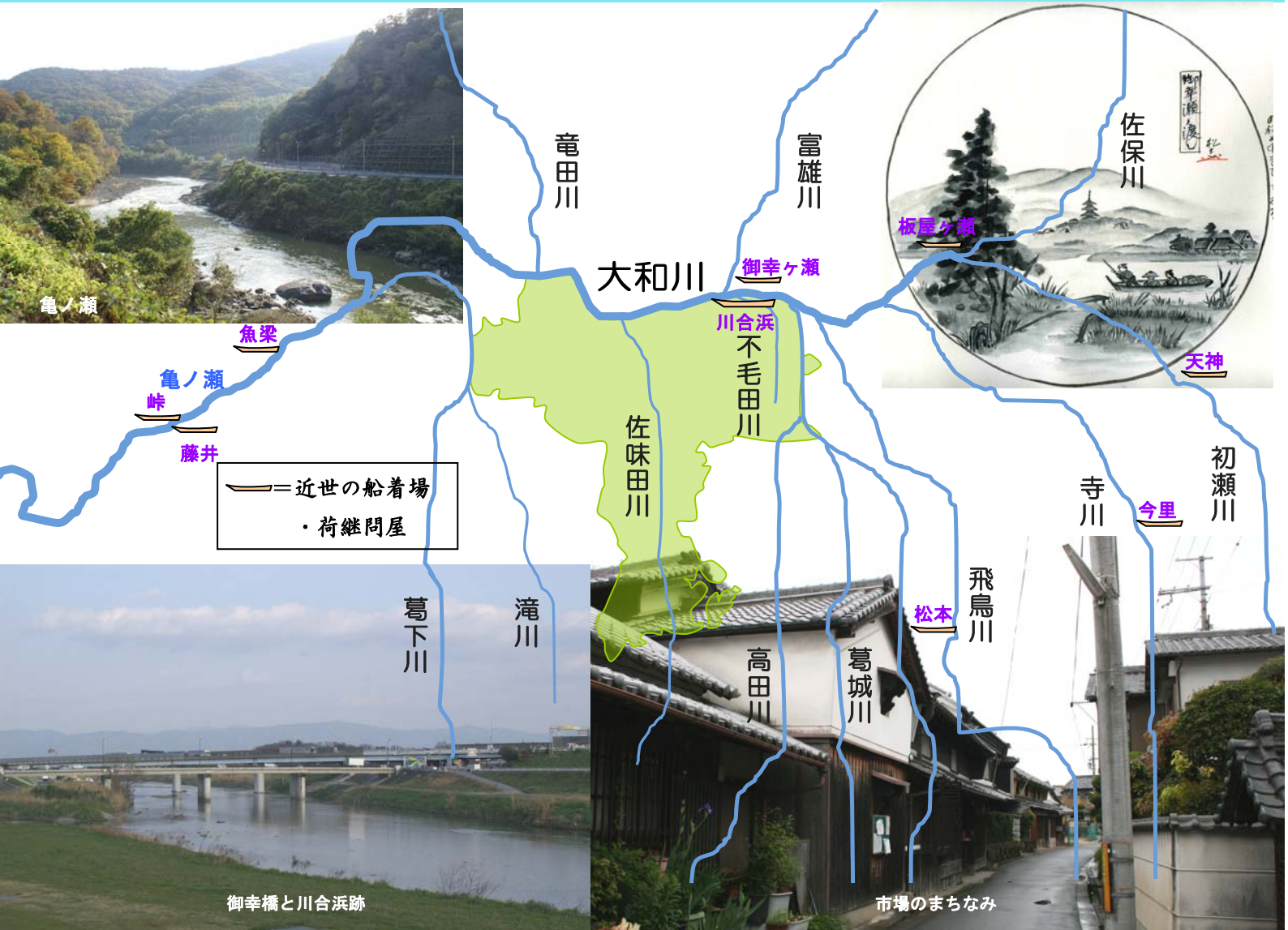
ます。剣先船については明治四十四年刊行の『大阪市史巻五』に図面が載

せられています。

これらの資料を参考に、赤穂市選定保存技術保持者（和船建造の技術）

の<sup>みなしたかし</sup>湊隆司氏に復元模型を制作していただき、中央公民館ロビーで展示して

います。





魚梁船復元模型 縮尺 1/10